

政策会議の議事要旨

- 1 **開催日時** 令和3年(2021年)8月23日(月)14:30~15:38
- 2 **出席者** 知事、関副知事、公営企業管理者、教育長、危機管理部長、企画振興部長、総務部長、県民文化部長、健康福祉部長、環境部長、観光部長、農政部長、林務部長、建設部長、会計管理者兼会計局長、佐久地域振興局長、上田地域振興局長、諏訪地域振興局長、松本地域振興局長、北アルプス地域振興局長、長野地域振興局長

3 議事等

議題	性の多様性への対応について
担当部局	県民文化部
概要	県が施策を行う上で、性的マイノリティの方々に対するきめ細やかな配慮が求められることから、外部講師からご講演をいただき、性の多様性について県職員自身の十分な理解を深める
主な意見 等	<p>【講演の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・当事者を含め多くの方が「LGBTQはいない」という社会で育っている。そのため、当事者が自身の性に対して違和感を覚えても頭の中で「自分がおかしい」と自分を責め、また「自分の居場所がなくなる」ことを恐れてカミングアウトできない。常に疎外感を感じている。・一方、最近では自治体、各企業などでLGBTQの理解を推進する動きが加速。・現在オリンピックが開催されているが、2015年にオリンピック憲章に「性的指向や性自認への差別禁止」が明記されるなど、国際的な動きも加速。・LGBTQのことを最も理解できる方法は、当事者の話を聞くことだが、それには当事者のカミングアウトが必須。理解を推進するためにも、まずは当事者がカミングアウトできる社会を作り出すことが重要。 <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・長野県もオリンピックを開催した県として、人権や平等の問題は真正面から取り組みたい。・これから県の政策を考えるときは、ジェンダー平等という大きな観点での整理が必要になる。・大きな計画をつくるより目の前で困っている人たち、社会に違和感を持っている人たちにどのようなメッセージを出すか、という具体的なところに力点を置く方が良い。
協議の結果	認識を共有